

上京

史蹟と文化

2016 VOL. **51**

美を創る



写真家

水野克比古

上京区大宮通元誓願寺下ル

相国寺放生池に咲く蓮、北野天満宮本殿前の梅。「上京—
史蹟と文化」の表紙を始め、京都の四季や風景、町並みを
五十年近く撮り続ける写真家の水野克比古さん。生まれ育つ
た京都の町に温かいカメラの目を向ける水野さんにお話を
伺いました。

◆ ◆ ◆
水野さんは一九四一（昭和十六）年西陣の生まれ。中学生の
頃から写真に興味を持ち、同志社大学ではカメラクラブに所属、
瀬戸内海をテーマにした作品制作で干拓地に長期滞在したり、
大学の人形劇サークルの移動劇場に同行取材するなど、専門の
新聞学より専ら撮影に励んだそうです。

お父さんのご職業は西陣織の紋意匠図を描くこと。着物や帯
の原図を描き上げる緻密な作業ですが、「私の性分には合わない。
どうしてもプロの写真家になりたいと思って」ある新聞社試験
に合格、写真部に配属されます。当時はドキュメント写真や激

しい動きのあるスポーツ写真が得意でしたが、入社したのがちよ
うど東京五輪開催の一九六四（昭和三十九）年で、部員の大半
が東京に応援に駆け出され、「残りは十人余り、朝から翌日夕方
までずっと仕事という日々が続きました」。

これでは体が持たないと退社して、伝手を求めて東京綜合写
真専門学校研究科へ。作庭家重森三玲氏（一八九六〜一九七五）
の二男で写真評論家の重森弘淹氏（一九二六〜一九九二）が主
宰する同校で改めて二年間、写真を学んだあと助手を務めまし
た。「学校の仲間ほとんどがドキュメンタリー系で報道写真家
を志向したが、フリーでやっても仕事がそれほどあるわけ
ではなく、商業写真や新聞のアルバイト程度で、皆食うや食わ
ずでしたね」「一九六九（昭和四十四）年ですから万博開催の前
年のこと、出版社から万博の写真を依頼され、横浜と京都を往
き来していました」と当時を振り返ります。

「復帰前の沖縄にも二度、行っています。日本はアメリカに占領されていると、反発する気持ちがあったのでしょいか。横浜や横須賀の基地の周りを撮影するのも興味深かったでしょね。展覧会を開き雑誌にも発表しましたが、それで食べられるはずもない。ちよつど七〇年安保の頃で、勤めていた学校も封鎖されて教員仲間もばらばらになりました。重森弘淹先生から『戻つて来い』と言われ、商業写真への道もありましたが、横浜から京都へ帰ると食べるものは美味しく、人は柔らかい」。これが報道写真から風景写真への転機となりました。

その頃はちよつどモノクロからカラーへの転換期、「カラー写真で仕事になることを考えたのが京都の風景写真でした。最



小学生のときに使用したカメラと中学生のときに使用したカメラ

初に撮ったのが紅葉の写真。桜はモノクロでも表現出来ませんが、赤い紅葉は黒く写つてしまいます。赤い色をモノクロで表現するのは難しい。これはカラーに適した題材だと手をつけたのがきっかけですね」。横浜に住まいも家族も残していたが、「紅葉を撮ったのなら、桜も撮ら

ないといけないと思うと、戻る気がなくなつて」。万博撮影の合間に一カ月半を掛けて京都、奈良、滋賀の各地をくまなく回つたとのこと。

「京都に帰ってから、まだお元気だった重森三玲先生のお宅に毎日のように出入りしていました。先生を訪ねてどなたかが来られてお話される。それを傍らで聴いていただけでしたが、このことが日本の、京都の伝統文化に関心を持つきっかけになりました。そのうちに三玲先生が庭園の写真集を出されることに

なり、それをきっかけに京都を本格的に撮るようになりました」

「写真作品を見た人が実際に画面の中にあるような、見ているような雰囲気を感じたい。画面の中に見える人を引き込むように出来ないと、出版系のプロとして成り立ちません」

「私の写真はアートとプロフェッショナルの合体だと思っています。職業上、売れる写真と自分の創造性をミックスさせなければならぬ。それがある程度出来たから続けられたのでしよう。重森弘淹先生の『五年後に評価される写真を撮れ』『一生続ければ一流になれる』の言葉をいつも思い出します」

「京都の絵になる撮影場所に行くとは何十人も人がカメラを構えている。すると同じ写真が出来て、個性がなくなっているのかも知れません。写真を撮る技術よりも如何に表現するか、今はコンピューターがカメラに入っているから、誰もが簡単に写真表現することが可能になっています。単に被写体の表面の美しさを写すのではなく、その内面に自分の心を通わせ写すことが重要です」

「広告写真の仕事もしますが、風景写真家としてほとんどは写真集、月刊誌や週刊誌、旅行雑誌と出版系の仕事が多いですね。表紙に自分の名前が出る本が一七五冊、これが私の著書になり生き甲斐です」。風景写真と言っても、庭園、坪庭、神社仏閣、建築物、春夏秋冬四季の移ろい、花鳥風月とジャンルは無限ともいえ、二〇〇〇（平成十二）年に



は大宮通の自宅向かいに、江戸後期建築と伝わる町家を修復して「町家写真館」を開設、そうした写真作品、出版物を展示しています。今年には既に二冊が出版され、大徳寺聚光院の写真集など三冊が制作中と、年五冊のペースで進み、「そろそろ二〇〇冊を目標に置いてもいいかな」。

モノクロからカラー、そしてデジタルと三つの時代を経験してきた水野さん、若い頃「京都の写真を半世紀撮り続けたら一流になれる」との夢はすでに実現、「好きでやりだした仕事、写真が生きがい、体が続く限りやめられない」と、きょうも京都の自然と風景を撮り続けています。

「一条通」

その時空を超えた往来

京都産業大学 日本文化研究所
 上席特別客員研究員 小嶋 一郎



旧・一条戻橋と式神像(清明神社境内)

条坊制と呼ばれる碁盤の目の如き「平安京」が造営された当初、「一条大路」はいわずもがな東西の通りとして、最北端の大路つまりメインストリートであり、平安宮の北端を左右に延びることから、九条通まである東西の通りの中でも重要視されていたようである。

中世の終わりくらいから近世にかけては、三条通が商業の発展に伴い、多くの店棚を構えることになったようにも思えるが、平安時代に遡る数々の伝説や安土桃山時代や幕末にも歴史上著名な人物達が居を構えた一条通は、歴史ファンの浪漫を掻きたててきた。高

僧でありまた古今無双の修験者といわれた「浄蔵」は、父である三善清行の葬列が、一条通が堀川にかかった頃、ようやくく熊野から駆けつけて追いつくことができ、その法力を持って、棺の中に居た父を一時的に蘇えらせ、しばし父子の名残を語り合ったという伝説が「戻り橋」の名の由来とも伝わる。

葬列が一条通を行きかいたという話もあれば、源氏物語「葵上」では「車争い」のシーンとしても登場する、「賀茂祭(葵祭)」の勅使列が通る重要な神事の通りでもあった。

結果、牛車の場所取りに敗れて辱めをうけた「六条御息所」は生き魂となつて、「葵上」を呪い殺すことによつて仕返しを遂げた。



安倍清明公像(清明神社境内)



大將軍神像(重文:大將軍八神社方徳殿)

紫式部にとつて、事件の怨恨の始まりが一条通にあることによつて、その重要性を世間にあらため

て知らせたかったのかも知れない。

また、源頼光の四天王のひとり、渡辺綱が大江山の茨木童子扮する鬼女と出会ったのも一条戻り橋。鬼にさらわれそうになった綱が、振り下ろした太刀で、鬼の片腕を切落として辛くも難を逃れたという。後日、茨木童子は綱の乳母に化けて、その片腕を奪い返しに



浄蔵貴所像(山伏山保存会蔵)

来たという。一条堀川には平安時代の中頃には、安倍晴明が当時の大内裏(平安宮)の鬼門を守るために自らの屋敷を鬼門封じとしたという。また平安時代の終わり頃には、鬼一法眼という謎の陰陽師が住んでいて、鞍馬の遮那王と呼ばれた源義経に「六韜」の虎の巻を盗まれたという伝説もある。安土桃山時代、豊臣政権下では千利休や黒田官兵衛孝高や上杉景勝らが、京(聚楽)屋敷として住んでいたという。千利休の屋敷は現在の清明神社境内の辺りで、茶の湯に適した地下水が湧いていたことが理由と伝わる。官兵衛の住まいの跡地は「如水町」・「小寺町」という町名として今に伝わる。景勝の屋敷跡は「弾正町」であったと推定されている。歴史を通して様々な伝説、様々な人物が時空を超えて話題となる一条通。その一

条通に鎮座する社として有名なのは「清明神社」と「大將軍八神社」であろう。前者は安倍晴明を祭神とし、後者は平安京造営時に方位を守る神の社として、都の周囲に祀られた大將軍社の一社として、現在まで千二百年を超えて信仰されてきた古社である。



清明神社例祭 神輿渡御(千両ヶ辻周辺)

永年の信用 まごころのご奉仕

公益社

本社 / 京都市中京区烏丸通六角上ル

☎ 0120-004-200

葬祭式場 **ブライツホール**

北ブライツホール	[堀川紫明]
中央ブライツホール	[五条大和大路]
南ブライツホール	[油小路八条]
西ブライツホール	[五条西大路]
山科ブライツホール	[五条外環]
烏丸ブライツホール	[烏丸高辻]
宇治ブライツホール	[宇治横島]
大津ブライツホール	[大津駅南]

「鬼門」という方角を表す言葉はよく耳にするが「天門」という言葉は耳慣れない。

「清明神社」が平安京の鬼門（艮・東北）を守護する位置ならば、「大將軍八神社」は天門（乾・西北）に位置する。九月秋分の日になると清明神社は例祭で活気を帯びる。

最近では西陣「千両ヶ辻」のイペントと相まって、一層賑やかさを増している。また十月第三日曜日は「大將軍八神社」の例祭が控え、一条通も秋になると、神様のお出ましが、多くなり、魍魎ちみもろうろうの類が追いやられてしまうと思いきや、なんのなんの十月第三日曜の前夜には大將軍商店街の「妖怪大行列」が一条通を賑わし、夜の

都路を我がもの顔で賑やかに練り歩く。

一条通が平安京の造営された頃から、見つめてきた伝説や神仏、異形の者達が、現代でも秋風の吹く頃になると、息を吹き返したように登場してくるのである。この秋は澄んだ空気の中、京都御苑の西から、妙心寺の北門を過ぎた辺りまで、一条通を歩いてみるのも



大將軍八神社 女神輿(同社境内)



大將軍八神社例祭 神事(同社境内)

気持ちのよいウォーキングになることとお薦めしたい。東を見れば比叡山が、西を見れば愛宕山が時折見え隠れする。その時、一条通が神仏と気脈を通じる道だということを引きつと実感し、また聖俗を問わず、貴賤を問わず、人々の暮らしと信仰を見つめてきた偉大な通りであることをあらためて見直すことになるだろう。



西京白味噌。

本田味噌本店
京都市上区西京町一丁目五五八

<http://www.honda-miso.co.jp>



香木・薫香・匂香

山田松香木店

〒602-8801
京都市上区御所小路町164
(堂町通下立売上ル)

TEL 075 4414694
TEL 075 4414694
FAX 075 441124

大峰殿と 草紙洗いの井戸



大峰図子町の大峰寺跡

平安京の大寺院の跡か

武者小路通小川東入ルの一角を占める武者小路千家官休庵の門前から南へ延びる西洞院通。通りを下ると一条通までの中ほど西側に大峰寺跡の駒札が立ち、民家に挟まれた狭い参道の奥の祠に石塔がひっそりと安置されている。

現在ではこの石塔と大峰図子町の町名が残るだけだが、平安京当時の西洞院通は南北を貫く幅八丈（約二四メートル）の大路で、一条大路の北に位置する辺り一帯は大峰野と呼ばれ、大峰寺という大寺院が在ったらしい。

大峰寺は大和の大峰山寺と同じく山伏たちの修験道場、信仰の場として栄え、境内が広く、宿坊も多かったことから大峰殿とも呼ばれていた。石塔は花崗岩製で高さ約二メートル、赤味を帯びており、仏像を刻んだ跡が見られるというが、祠の外観からその姿をはっきり確認することは出来ない。大峰寺創

建当時から今に残るとも、修験道の創始者役小角（六三四伝〜七〇一伝）の墓とも、役小角から数えて十代目の法嗣日円（圓）（平安初期の天台阿闍梨、八一一年に熊野神社を勧請したことで知られる）の墓とも伝えられる。

「今昔物語集」に登場

その大峰寺が、わが国最古の説話集「今昔物語集」（※）巻二十九話「本朝付仏法（天狗、冥界の往還、因果応報）」に登場する。「今は昔、京に外術と云ふ事を好みて役とする下衆法師ありけり」。

この説話は、法師が履物をイヌの子に変え、懷中からキツネを鳴かせて出し、馬や牛の尻から入って口から出てくるなど怪しげな術をやって見せて、人々を驚かせるところから始まる。以下、原文を意訳して読んでいこう。

隣家の男は羨んで、「私に術を



石塔が安置される祠

教えて欲しい」と切々訴えるのだが、法師は「人に教えることではない」となかなか承知してくれない。それでも諦めずに懇願すると、法師は「この術を習おうとす

が、その間にも法師がやって来て「この術を習うとする志があるのなら、決して刀を持って行ってはいけない」と勸るに諫める。男は「刀を持たないことなど難しい

る気持ちがあるのなら、ゆめゆめ人には知られぬように、七日間しっかりと精進潔斎をして、淨く新しい桶を一つ手に入れて、それに美味しく炊いた交ぜご飯を入れ、自分で背負って、やんごとなき所に行つて教えてもらおう。私は教えるのではなく、ただそこに連れて行くだけだ」という。

男は法師の言葉に従い、家に籠つて精進するのだ

ことではない」と言ったものの、「法師の言葉は極めて怪しい。もし刀を持たずに困難に会えば益はない」と思い直して、ひそかに小刀を鋭く磨いでおくのだった。

一瞬に消え失せた老僧

七日が過ぎた日の明け方、二人は出発する。男は刀を懐に隠し持って桶を肩に担ぎ、法師を前に立てて、どことも分らない山中を遙々と進んで行くと、巳の時(午前一〇時頃)になり、立派な造りの僧坊が見えて来た。

男を残して法師が中に入つて行った。見ると眉の長い、やんごとなさそうな老僧が出て来て、「お前は久しく顔を見せなかつたではないか」と言う、法師は「つい忙しい、久しくご無沙汰していました」と釈明して「修業をしたいと申す男を連れて参りました」と続けた。老僧は「お前はまた詰まらないことを喋つたな。こ

京都に生まれて五世紀

www.toraya-group.co.jp

Every Day 5:00~7:00pm
HAPPY HOUR
40%OFF

金曜・土曜は
 4:00pmから開催!!

毎日17~19時はお酒が4割引!!ホテルバーのハッピーアワー!!
 1F ライブラリーラウンジ・バー「ヘイヴン」では、
 毎日17~19時はホテル、企画商品および喫茶メニューを除く、
すべてのドリンクを40%OFFでお楽しみいただけます。
 この機会にホテルバーをお気軽にご利用ください。

ライブラリーラウンジ・バー「ヘイヴン」 Tel.075-223-8974 (直通)
 地下鉄京都市役所前駅から徒歩で約1分

京都ロイヤルホテル & スパ

こに呼べ」と言う。呼ばれて男が後ろにたつと、法師は持って来た桶を受け取り縁側に置いた。老僧が「お前は刀を持っていないか」と問うので、男は「持っていない」と答えたものの、疎ましく怖そうなことこの上もない。

老僧は若い僧を呼び寄せ、「その男は懷中に刀を持っているだろう、探れ」と命じた。若僧が懷を探そうとするので、男は「自分の懷には刀がある。これを見つけたら我が身に良いことなど起らない。どのような目に遭わされるか。同じ死ぬのなら、この老僧を刺してから死にたい」と思って、若僧が近づくと否や、密かに懷の刀を抜いて、縁側の老僧に飛び掛かった。

と、その一瞬、老僧も僧坊も急に消え失せてしまった…。

人を誑かした天狗の業

ようやく辿りついた僧坊。教え

を乞うはずの老僧は、妖術を使う天狗だったのか。呆然とした男が気を取り直して周りを見渡すと、そこは大きなお堂の中だった。法師は「全てが台無しだ」とのしり、男は言葉もなく立ち尽くした。「山中をはるばるやって来た」と思った場所は、一条西洞院の大峰寺だった。男は訳が分からないまま家に戻り、法師も泣く泣く家に帰ったが、二、三日後に死んでしまった。

全く天狗に摘ままれたような話であり、そのことを知らなかった男は死なずに済んだ。このような業で人を誑かすのは、まことに罪深いことである。三法に帰依しようと思うものは、決してこうした外術に手を出してはならない。「此様の態する者をば、『人狗』と名付て、人に非ぬ者也と、語り伝へたるとや」

このような途方もなく罪深い仕事をやる者は「人狗」と呼ばれ人間ではない者だと、人々は語り伝

えたという。これが「外術」と呼ばれる妖しげな術らしい。「今昔物語集」には、空を駆け、人に取り憑く「鷹」と呼ばれる魔物や、顔は天狗、体は人間で、一對の羽を持つ魔物など、多くの天狗説話が書かれているが、この老僧もそうした天狗の仲間だったのだろうか。

藤原研子の火葬塚とも

この石塔はまた、わが世の春を謳歌した摂政関白藤原道長（九六六〜一〇二八）の二女、藤原研子（きよこ、九九四〜一〇二七）の火葬塚とも伝えられる。研子は三条天皇の中宮で、二人の子である禎子内親王が東宮敦良親王（のちの後朱雀天皇）に入内した半年後に病で崩じた。「日本紀略」に万寿四年（一〇二七）九月十四日に亡くなり、十六日の項に「皇太后（研子のこと）ヲ大峰寺ノ前ノ野ニ葬リ奉ル」とあるのが根拠とさ

新・古茶道美術品

清昌堂
やました

京都店・京都市上京区小川通寺ノ内上ル

〒602-0061 TEL (075) 431-1366

FAX (075) 431-1370

東京店・東京都新宿区市谷甲良町1-8

〒162-0856 TEL (03) 5261-4566

FAX (03) 3235-5677

柔道圓心道場

〒602-0014
京都市上京区室町通寺之内上ル下柳原北半町 210
TEL (075) 441-1968 / FAX (075) 441-2972

山崎接骨院

〒602-0898
京都市上京区烏丸通寺之内西上ル相国寺西門前町 647
TEL (075) 451-6050 / FAX (075) 451-6051

<http://www.enshin.sakura.ne.jp/>



「小野小町雙紙洗水遺跡」の石碑



一条堀川から東を望む(車の傍りに石碑がある)



小野小町を描いた古今和歌集奏覧1100年記念切手

供養塚もあったというが、その面影は全くなく、世阿弥元清(一三六六〜一四三三)作の能楽「草紙洗小町」の舞台であること

大峰岡子町からほど近く一条通を西へ。油小路通と東堀川通の間を北へ向かう小道を小町通と呼ぶ。堀川に掛かる一条戻り橋から東へ数十詰の地で、西北角は青空ガレッジ、傍らの電柱に隠れるように「小野小町雙紙洗水遺跡・小町通」と刻まれた小さな石碑が立つ。この辺りには昔、小野小町(八二五〜九〇〇?)が草紙洗いに使ったと語り継がれる井戸があり、清和水とも更級水とも呼ばれる京の名水の一つだった。江戸期には井戸の側に小町塔と呼ばれる

小町が草紙洗った井戸

れるが、確定には至っていない。

歴史文字シリーズ

伝達浪漫

紀元前3000年頃。パンのシンボルが描かれ、食料配給の割り当てが記録されている。

和光印刷株式会社

〒602-0012 京都・烏丸通上御霊前上ル TEL.075-441-5408(代)

E-mail:info@wako-print.co.jp

京都人さえもが恋するホテル。

BRIGHTON KYOTO

〒602-8071 京都市上京区新町通中立売(御所西)

TEL.075-441-4411(代) FAX.075-431-2360

http://www.brightonhotels.co.jp/kyoto/

が今も地元の誇りになっているようだ。

そう言えば戦後のいつ頃までだったか、小川通の西側を並行して小川が流れ、一条小川で西向きに流れを変えて、戻り橋付近で堀川に合流していたことを思い出す。一条通は堀川から東へ緩やかに低くなっており、名水が湧き出していた名残りなのかも知れない。

一首だけ洗い流された

これも平安時代の話。宮中新年恒例の清涼殿歌合で、小野小町と大友黒主が対峙することになった。「古今和歌集」にその名前を連ね、後世、共に六歌仙と称された二人だが、互いに詠んだ歌を比べて優劣を争う歌合で、小町にとつてい勝負がないと思つた黒主は一計を案じた。前夜、小町の屋敷に忍び込み、小町が吟ずる

蒔かなくに何を種として浮草の波のうねうね生ひしげるらん

の歌を盗み聞きして、それを懐に隠し持った万葉の草紙に書き入れるのだった。

歌合の当日、帝や紀貫之などが居並ぶ中、小町がこの歌を披露すると、黒主は「その歌は万葉集に詠まれているもの。盗作じゃ」。小町は万葉の歌にも通じているので、そのようなことは決してないと思うものの、黒主は「それ、この通り」と万葉の草紙を見せつけ、攻め立てる。

小町は万座の中で反論も出来ず、貫之の計らいで帝の勅許をえて、その草紙を清い井戸水で洗つたところ、小町の詠んだ一首だけが消えて、身の証しを立てることが出来た。黒主は非を恥じて自害しようとするが…。

この井戸こそ一条堀川東入ル付近に存在したと語り継がれている井戸らしい。

能楽「草紙洗小町」では、帝は小町の取りなしで黒主を許され、小町は薦められて御祝を謡い、和

歌の徳を讃えた舞を披露して幕になるのだが、大友黒主には人を陥れるような行為があつたという史実はなく、昔ばなしの中で冤罪を着せられた被害者と言えよう。

同じ能楽の「志賀」では、黒主は和歌の徳を説く神として登場する。黒主が志賀の桜を眺めるさまをテーマにしたもので、祇園祭の「黒主山」には杖をつき、白髪の鬚の翁として登場する。この大友黒主は「万葉集」の編者大伴家持と同一人物だという説もあるが、本題から外れるのでまたの機会に。

(福井 和雄)

※平安時代末、白河法皇(一一〇五三―一一二九)頃にまとめられた、天竺(インド)・震旦(中国)・本朝(日本)の三部に分かれ、一千余の説話を集めた全三十一巻(現存は二十八巻)のわが国最大の説話集。天皇・貴族や当時台頭してきた武士から僧侶、神官、庶

民までが登場して、いかにも人間らしい振る舞いや摩訶不思議な行いを展開しており、芥川龍之介(一八九二―一九二七)の「羅生門」「鼻」など、近代の文学作品にも大きな影響を与えた。創作は一つもなく、全て他の物語集などからの引用で、「今昔」で始まり、「トナム語り伝へタルトヤ」(「と語り伝えられていくということだ」)で終わるよう統一されている。



大本山相国寺
TEL (075) 231-0301
承天閣美術館
TEL (075) 241-0423

〒602-0898
京都市上京区
相国寺門前町701
<http://www.shokoku-ji.jp>

上京区総合庁舎の前に並んだプランターに植えられ、区民ボランティアの皆さんが毎日手入れをする四季折々の花々が、区役所に来庁される方や道行く人々の目を楽しませています。

6月11日には、ボランティアの皆さんによって一斉植替え作業が行われました。爽やかなラベンダーと真っ白なフランネル・フラワーが、夏の陽射しのなか、元気に咲き誇っています。



「みんなであ 花を咲かそう」活動



「映画のつどい」 上京区憲法月間

5月26日、同志社大学寒梅館において、病と差別に屈せず生きる元ハンセン病患者の姿を描いた映画「あん」の上映と、「ハンセン病患者・回復者への差別撤廃を求めて」と題して同志社大学坂元茂樹教授による講演が行われました。昨年に引き続き、日本語字幕と音声ガイド（クローズ方式）による場面ごとの説明がついた「ユニバーサル上映」を今回も実施し、来場された方の誰もが映画を楽しんでいただける機会となりました。また、講演では手話通訳も実施しました。会場には一部・二部あわせて1000名を超える方が来場され、人権意識を高めるきっかけとしていただきました。

訂正 上京一史蹟と文化50号において、次のとおり誤りがありましたのでお詫びして訂正いたします。
【訂正箇所】8ページ 大報恩寺 本文 十一行目及び十三行目
(誤) 十六弟子像 (正) 十大弟子像

上京文化 絵巻 第4巻



26年度、新庁舎開庁記念事業として実施された連続講座「上京文化絵巻」が、参加者から好評で、ぜひ継続して開催してほしいとの声に応え、2月27日上京区総合庁舎会議室で第4巻を行いました。

今回は、染色工芸作家の羽田登氏が「水と生活と工芸」をテーマに、京の四季折々の様子を工房で作品に仕上げる工程を中心にお話をされました。会場には羽田氏の作品「桂川月光」「北野梅曆」も展示され、参加者の目を楽しませていました。

「上京茶会」

春の「上京茶会」が、6月25日大本山妙顯寺を会場に、表千家による懸釜で開催されました。「光琳曲水の庭」が目の前に広がる本席と、雨に濡れ緑を色濃くした「四海唱導の庭」を眺めながら床几に座っていただく副席の二席でお茶を味わい、雨天ながら清々しいひとときを過ごしていただきました。



上京区民ふれあい文化大学



3月12日、上京区総合庁舎会議室において、「上京区民ふれあい文化大学」が開催されました。講師の歴史地理史学者中村武生氏が、「御土居堀ものがたり」をテーマとして、豊臣秀吉の時代に京都を囲むように作られた御土居堀について、地図や写真等を使いながら、わかりやすく解説をしていただきました。参加者は、上京区内に今も残り、身近な存在である御土居堀について、理解を深めることができました。

元祖

畑かど

ぼたん鍋と京料理



京・上御霊前鳥丸西
075-441-0600代

「上京・史蹟と文化」は上京区役所地域力推進室まちづくり推進担当で販売致しております。(TEL441-5040)
また、上京区役所のホームページで御覧いただけます。

鑑定書不要!

ダイヤモンド&宝石各種、絶賛高価買取中!

宝石・貴金属の鑑定は、**FGA (英国宝石学協会)** 認定資格者が行いますので鑑定書は不要です。

宝飾・時計

ブランドバッグ

美術品・書画・骨董

YOROZUYA 四条店

ドライブスルー質屋 加藤商店グループ

(株)よろず屋 四条店 『楽天地場』にも出店中

京都市中京区東洞院通四条上ル「大丸京都店」北隣

TEL. **075-241-7900**

◎営業時間/買取 10:00→19:30

販売 11:00→19:30

年中無休

〈本店〉創業70年

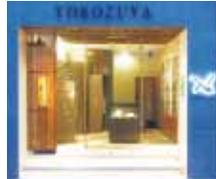
京都市上京区鳥丸通今出川下ル(地下鉄今出川駅すぐ)

☎ 0120-25-0700

◎営業時間/11:00→19:00(土曜日は18:00迄)

◎定休日/日・祝 ◎駐車場10台完備

京都 よろず屋 検索 京都 加藤商店 検索



酔一筋の商い、伝統の滋味。

きょう あしたへ

伝統から未来へ

京・西陣 孝太郎の酔

(有)林孝太郎造酔

京都市上京区新町寺ノ内上ル東入道正町455

TEL (075) 451-2071

FAX (075) 451-8028



- 神学部
- 文学部
- 社会学部
- 法学部
- 経済学部
- 商学部
- 政策学部
- 文化情報学部
- 理工学部
- 生命医科学部
- スポーツ健康科学部
- 心理学部
- グローバル・コミュニケーション学部
- グローバル地域文化学部



Doshisha University
同志社大学

<http://www.doshisha.ac.jp>

お問合せ先 同志社大学 広報部 広報課 TEL:(075)251-3120



創立以来八十年にわたって、和やかな家庭的な雰囲気にもまれつつ就学前教育の本流をめざして、保育を続けて参りました。幼児たちは楽しい遊びを通して、人生に必要な生きる力のすべてを手に入れます。

学校法人 **北野幼稚園**

京都市上京区御前通一条下る (北野天満宮バス停下車南100m)

TEL. **463-0111**(代)

<http://www.kitano.ed.jp/>



名物ゆどうふ
南禅寺

南禅寺 JUNSEI

左京区南禅寺門前 電話 075-761-2311

<http://www.to-fu.co.jp>

発展、ともに前へ… 洛和会丸太町病院



洛和会ヘルスケアシステム®

京都市中京区七本松丸太町上ル

救急対応

24時間365日

内科・外科救急

内科／呼吸器内科／
消化器内科／心臓内科／
神経内科／外科／
整形外科／形成外科／
皮膚科／泌尿器科／
耳鼻咽喉科／麻酔科／
リハビリテーション科／
内分泌糖尿病内科／救急科

耳鼻科救急

月～金 午後7時～
午後11時

救急・急患には24時間体制で対応しています。

洛和会丸太町病院へのお問い合わせは TEL 075(801)0351(代)



M
MALEBRANCHE
京都 北山

洋菓子

マールブランシュ 京都 北山本店

〒603-8053 京都市北区北山通植物園北門前
TEL (075)722-3399・FAX (075)702-9440
9:00AM-8:00PM 年中無休(喫茶10:00AM-8:00PM)
www.malebranche.co.jp

ご注文専用
フリーダイヤル

☎ 0120-139-399
受付時間 9:00～18:00 [日曜日定休]

上京区文化振興会

発足以来約60年、これからも上京区の文化振興に貢献します。

上京区文化振興会は、昭和33年に結成されて以来、様々な文化事業の開催を通じて上京区の文化の普及と啓発に努めています。昭和40年から毎年開催している上京茶会と上京新能は、上京を代表する文化事業として区民に親しまれています。

冊子「上京－史蹟と文化」は、上京区の豊かな歴史と伝統に育まれた質の高い文化を身近に感じていただき、文化資源の貴重さを再発見し、関心を高めていただこうと上京区文化振興会が編集し、上京区民ふれあい事業として年2回発行しています。本冊子の第1号から最新号まで上京区のホームページから御覧いただくことができます。

(<http://www.city.kyoto.lg.jp/kamigyoo/>)

事業予告 上京文化絵巻第5巻(予定)

平成29年2月5日(日)午後2時～於上京区総合庁舎会議室

講師：臨済宗相国寺派管長 有馬頼底氏

臨済宗相国寺派教学部長 矢野謙堂氏 (詳細は市民しんぶんでお知らせします)

